

令和 5 年 9 月

櫻井優祐 学位論文審査要旨

主 査 松 浦 治 代
副主査 山 崎 歩
同 片 岡 英 幸

主論文

Perceived difficulties and learning needs among acute care ward nurses providing end-of-life care during the COVID-19 pandemic: comparison by years of clinical experience

(新型コロナウイルス感染症パンデミック下における急性期病棟看護師の終末期ケア時の困難感と学習ニーズ：臨床経験年数による比較)

(著者：櫻井優祐、山本美輪)

令和5年 Yonago Acta Medica 66巻 第3号 334頁～344頁

参考論文

1. Factor analysis of nursing students' concept of life and death

(死に関する看護学生の死生観についての意識調査)

(著者：櫻井優祐、山本美輪)

平成30年 International Journal of Japanese nursing care practice and study
7巻 17頁～22頁

審査結果の要旨

本研究は、COVID-19パンデミック下における急性期病棟看護師の終末期ケア時の困難感と学習ニーズについて、31名に個別インタビューを実施し、新人看護師（初心者）と中堅／熟練看護師（経験者）の経験年数により2群に分類し、それぞれにテキストマイニングツールを用い分析、検討したものである。その結果、初心者は患者や家族とのコミュニケーションや緩和ケアの実践的なスキルを課題と捉えており、教育機会の必要性が示唆された。経験者は、患者のケアだけでなく、病室環境や家族との時間の過ごし方を考え、エンゼルケアに関する学習の機会も求めている。また、病棟内、院内の環境管理があげられ、管理運営のためのルールや指揮系統の確認、他院との情報交換が重要であることが示唆された。COVID-19パンデミック下における急性期病棟看護師の終末期ケア時の困難感と学習ニーズが明らかにされ、明らかに学術水準を高めたものと認める。